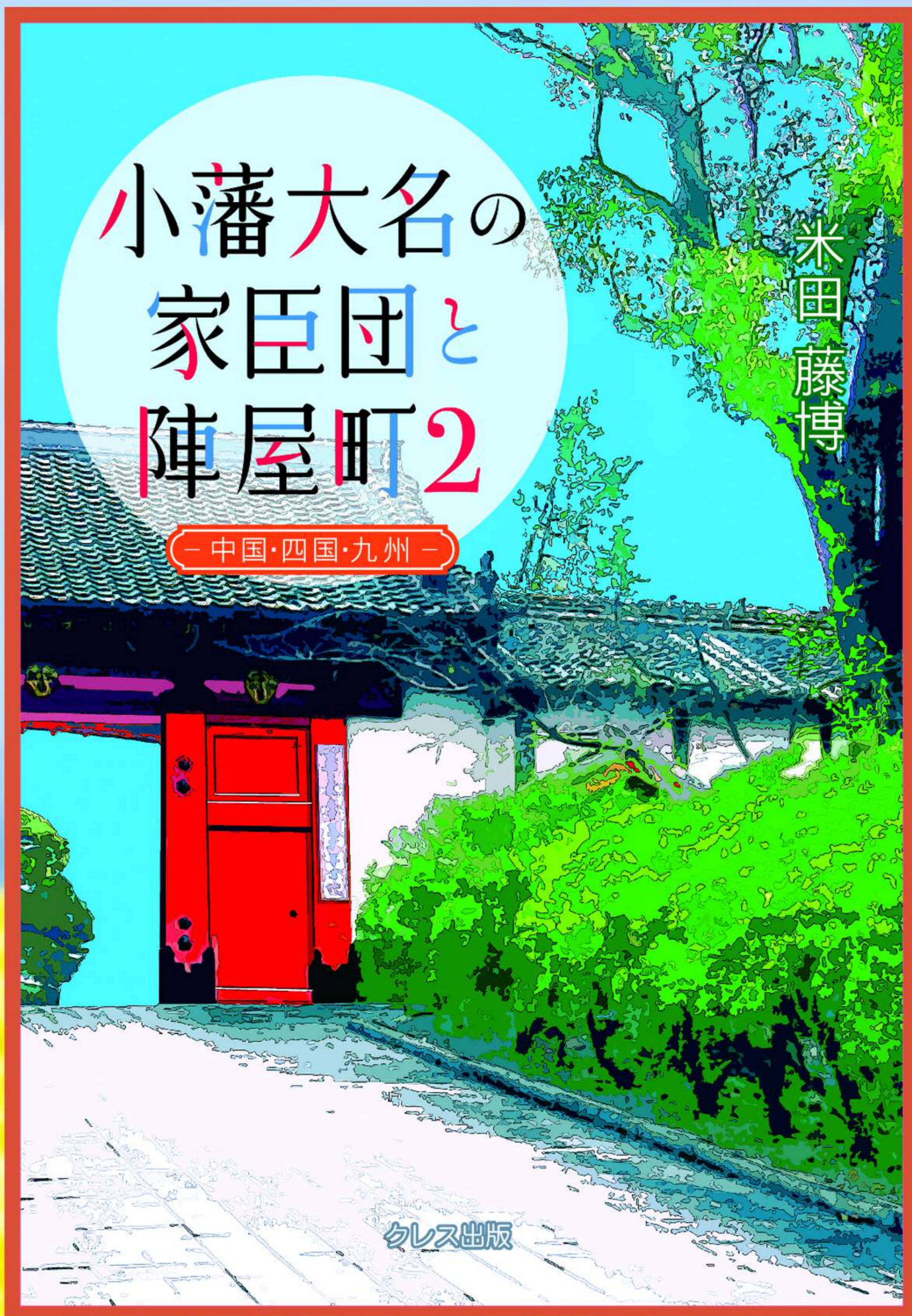


小藩大名の家臣団と陣屋町



—中国・四国・九州地方—

A5判 / 並製 / 306頁 / C3025
本体価格 6,000円 (税抜)
ISBN 978-4-87733-999-9

表紙：旧肥前鹿島陣屋表門
(現・鹿島高校赤門)



—南関東・中部地方—

A5判 / 並製 / 360頁 / C3025
本体価格 6,000円 (税抜)
ISBN 978-4-86670-058-8

表紙：旧田野口陣屋＝龍岡城 (信濃五稜郭)

著者のライフワークとして始まり、江戸幕府下の全国各地にあった小藩の体制や陣屋町を調査する為、著者自らが歩き訪れた様々な地方の資料を地域ごとにまとめたシリーズ。長らく品切れだった三地域のうち、「近畿地方」に続いて「中国・四国・九州地方」「南関東・中部地方」も新装改訂版として、ここに刊行する。

中国・四国・九州地方

人の邸宅を偲ぶことができる。秦家は大年守として町政に携わる傍ら、製鉄・酒造・藩札発行などの経済活動、貧民の救済・道路改修に私財を投じ(註2)、広瀬町政の中心となった家柄である。



写真1 広瀬藩元用人岩田家の門・供待所・馬屋(石橋町)

ここに288世帯・878人が居住する。

昭和3年、山陽本線荒島駅から広瀬に通じた広瀬鉄道も、昭和35年に廃止され、さらに一畑バスも撤退した。現在の公共交通機関は安来市広域生活バスが、安来駅または荒島駅から通じるのみで、回数も少なく、不便になった。



写真2 広瀬藩元家老鈴木家の庭園(現小学校4庭)

注および参考文献

- 1) 音羽織編・改訂版、山陰の鎌倉、出雲広瀬、一宮田城下町と広瀬城下町一、報光社、1996、2・6枚目(ページの記載なし)。
- 2) 木村健・藤野保・村上直樹編、藩史大辞典6、中国・四国編、雄山閣、1990、p104。
- 3) 島根県：島根県史8、名著出版復刻、1972、p612。
- 4) 広瀬町史編纂委員会：広瀬町史、上、広瀬町役場、p175に「封米を削ら

第2章 中国の大名陣屋町



図4 広瀬陣屋町の現況図 ※現況図は「スーパーマップル・デジタル20 全国版」を使用して作成。

広瀬陣屋町の現況図

南関東・中部地方

第2章 南関東の大名陣屋町

地方役所、西側に上屋敷と呼ばれ、中央に御殿が存在する。上屋敷のうち、大手門を入った右側に馬場などが存在した。

陣屋の周囲は土塁に囲まれ、土塁の上には土塀が建造されていた。しかし街道に面した部分は土塀であるが、他の三方は木柵であった可能性もある(註18)。また、東・西・南の大部分は空堀に囲まれ、その長さ369.5間(約665m)に及ぶ。陣屋は巻梯(引)台地の末端にあり、この台地は関東ローム層の火山灰台地であるため保水性に乏しく、水堀にすることは不可能だったのではなかろうか。

大手門から広小路を進むと右側に奥行2.5間、桁行36.5間の大きな長屋門があり、この門が御殿への門である。長屋には番所の他、郡代・目付などの役部屋や厩などがある。長屋門の南端近くに裏門があった。長屋門と家臣の住宅や長屋で御殿を取り囲み、西側の住宅のさらに西に杉山が存在し、杉山の南端には角場(的場)があった。御殿の詳細については不明である。陣屋の南西端近くに積古場があり、その近くに高島秋帆の幽閑長屋が存在した。高島秋帆については後述する。

大手門に入って少し南進すると、左に折れる道があって、この道を東へ進むと通用門に至る。通用門への北側に三軒長屋があり、通路の南側は地方と呼ばれる在地位所である。在地位所は中央に御役所、役所の北側に木戸門があって、役人住居・詰所の長屋などが存在した。役所の北東にも木戸門があり、中は作事小屋・木小屋である。役所の西には足軽部屋・山方部屋などの長屋があり、役人住居や何棟かの土蔵が存在した。図に記された住居は、1戸建て住居8戸、二軒長屋4棟、三軒長屋3棟である。総計23人の氏名がみえる。

小藩の藩に藩校の創立が早く、安永末から天明初年(1781年頃)に江戸藩邸内に藩校「就塾館」が創設された。一時退廃したが、文化12年(1815)に再興する。その後、藩校は衰退するが、嘉永2年(1849)に就塾館を廃し、新しく「学聚館」と「儀武館」を江戸藩邸内に開設した。岡部では天保14年(1843)、岩井又助が居宅で藩士教育を始め、陣屋内に武道場・射撃場・馬場等が設けられた。

高島秋帆については、これまでに種々の著述がみられる(註19)。これら

第2章 南関東の大名陣屋町

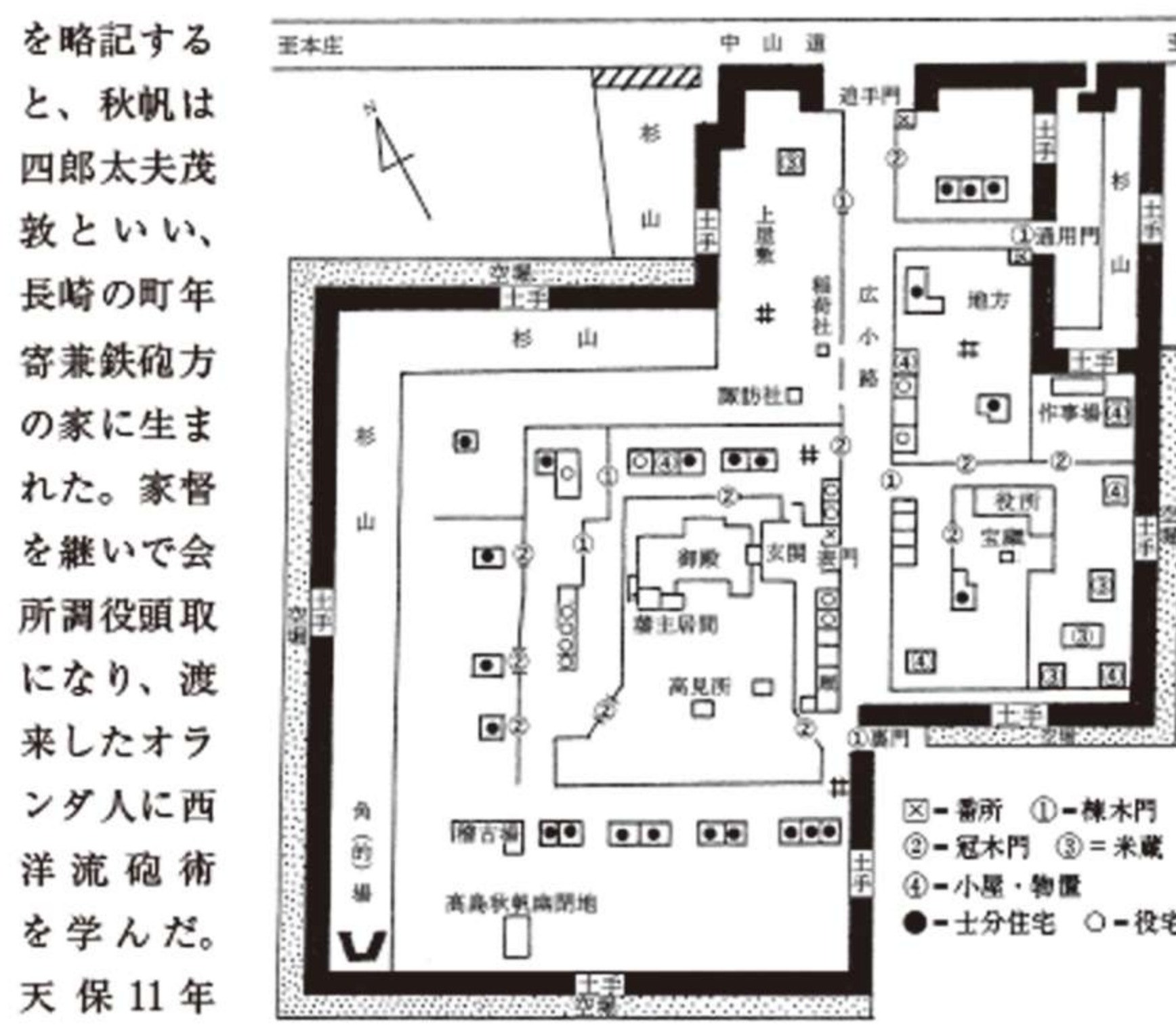


図25 武州岡部陣屋之図(『岡部藩始末』の図を基に作成)

を略記すると、秋帆は四郎太夫茂敦といい、長崎の町年寄兼鉄砲方の家に生まれた。家督を継いで会所調役頭取になり、渡来したオランダ人に西洋流砲術を学んだ。天保11年(1840)、幕府に洋式砲術の採用を建議し、翌12年に洋式の訓練を実施して幕府首脳を驚かせた。天保13年、島居超蔵の讒言により、弘化3年(1846)に岡部藩へ幽閑された。岡部藩では上屋敷内に新家を建て、罪人とはいえ丁重に扱われ、藩士の砲術師範を務めた。嘉永6年(1853)に許され、安政2年(1855)には幕府講武所の砲術師範、文久3年(1863)に具足奉行格として幕府に貢献したが、慶応2年(1866)に江戸にて死去した。陣屋から中仙道へ隔てた所に源勝院という寺院がある。源勝院は安部氏の祖信勝が、父元貞の菩提を弔うため、慶長4年(1599)に整備したと伝えられている(註20)。初代信勝は大坂の鳳林寺に葬られ、源勝院には夫妻の供養塔が建立されている。2代信盛から13代信宝までの12人は傘塔型の墓碑で、寺の西側の土塁の上に、南から北へ一列に並んでいる。遺体を埋葬した藩主もいるが、毛髪(毛骨)を埋葬した墓もあろうと推測する。陣屋前の中山道は道幅8間半で、道両側の民家の屋敷幅は一定であっ

岡部藩 高島秋帆幽閑時陣屋図

第一巻 近畿地方

- 近畿各地の陣屋町
 近江国(滋賀県)
 近江大溝陣屋(高島市勝野)
 近江西大路=仁正寺陣屋(蒲生郡日野町西大路)
 丹後・丹波国
 丹後峯山陣屋(京都府丹後市峯山町吉原)
 丹波山家陣屋(京都府綾部市広瀬町)
 丹波綾部陣屋(京都府綾部市上野町)
 丹波園部陣屋(京都府南丹市園部町小桜町)
 丹波栢原陣屋(兵庫県丹波市栢原町栢原)
 大和国(奈良県)
 大和小泉陣屋(大和郡山小泉町)
 大和柳本陣屋(天理市柳本町)
 大和芝村陣屋(桜井市芝)
 大和田原本陣屋(磯城郡田原本町田原本)
 摂津・河内・和泉国
 摂津麻田陣屋(大阪府豊中市蛭池中町三丁目)
 河内狭山陣屋(大阪府大阪狭山市狭山三丁目)
 和泉伯太陣屋(大阪府和泉市伯太三～四丁目)
 但馬国(兵庫県)
 但馬豊岡陣屋(豊岡市京町)
 但馬村岡陣屋(美方郡香美町村岡)
 播磨国(兵庫県)
 播磨小野陣屋(小野市西本町)
 播磨林田陣屋(姫路市林田町)
 播磨安志陣屋(姫路市安富町安志)
 播磨山崎陣屋(宍粟市山崎町鹿沢)
 播磨三日月(乃井野)陣屋(佐用郡佐用町乃井野)
 播磨福本陣屋(神崎郡神河町福本)

第三巻 南関東・中部地方

- 南関東の大名陣屋町
 房総地方(千葉県)
 下総小見川陣屋(香取市小見川)
 下総高岡陣屋(成田市高岡)
 下総多古陣屋(香取郡多古町多古)
 下総生実陣屋(千葉市中央区生実町)
 上総鶴牧陣屋(市原市椎津)
 上総飯野陣屋(富津市下飯野)
 安房勝山=加知山陣屋(安房郡鋸南町勝山)
 安房館山陣屋(館岡市城山)
 武相地方
 武蔵岡部陣屋(埼玉県深谷市岡部)
 武蔵金沢=六浦陣屋(横浜市金沢区六浦二丁目)
 相模荻野山中陣屋(神奈川県厚木市下荻野)
 中部地方の大名陣屋町
 甲信越地方
 越後村松陣屋(新潟県五泉市村松乙)
 越後与板陣屋(新潟県長岡市与板町与板甲)
 信濃須坂陣屋(長野県須坂市常磐町)
 信濃岩村田陣屋(長野県佐久市岩村田)
 信濃田野口=龍岡陣屋(長野県佐久市田口)
 東海地方
 駿河小島陣屋(静岡県清水区小島本町)
 遠江相良陣屋(静岡県牧之原市相良)
 三河奥殿陣屋(愛知県岡崎市奥殿町)
 美濃高須陣屋(岐阜県海津市海津町高須)
 伊勢菰野陣屋(三重県三重郡菰野町菰野)

第二巻 中国・四国・九州地方

- 中国の大名陣屋町
 出雲広瀬陣屋(島根県安来市広瀬町)
 備中足守陣屋(岡山県北区足守町上足守)
 備中庭瀬陣屋(岡山県北区庭瀬町)
 備中新見陣屋(岡山県新見市)
 備中岡田陣屋(岡山県倉敷市真備町岡田)
 備中成羽陣屋(岡山県高梁市成羽町)
 周防徳山陣屋(山口県周南市徳山町)
 長門清末陣屋(山口県下関市清末町)
 四国の大名陣屋町
 讃岐多度津陣屋(香川県仲多度郡多度津町)
 伊予小松陣屋(愛媛県西条市小松町)
 伊予新谷陣屋(愛媛県大洲市新谷)
 伊予吉田陣屋(愛媛県宇和島市吉田町)
 九州の大名陣屋町
 筑後三池陣屋(福岡県大牟田市三池新町)
 肥前鹿島陣屋(佐賀県鹿島市城内)
 肥後宇土陣屋(熊本県宇土市新小路町)
 豊後森陣屋(大分県玖珠郡玖珠町森町)

第四巻 東北・北関東地方

- 東北地方の大名陣屋町
 陸奥国
 黒石陣屋(青森県黒石市内町)
 八戸陣屋(青森県八戸市内丸)
 一関陣屋(岩手県一関市内)
 下手渡陣屋(福島県伊達市月館町下手渡)
 湯長谷陣屋(福島県いわき市常磐下湯長谷町)
 泉陣屋(福島県いわき市泉町四丁目)
 出羽国
 亀田陣屋(秋田県由利本荘市岩城亀田町)
 矢島陣屋(秋田県由利本荘市矢島町矢島)
 天童陣屋(山形県天童市田鶴町)
 北関東の大名陣屋町
 常陸国(茨城県)
 麻生陣屋(行方市麻生)
 志筑陣屋(かすみがうら市志筑)
 牛久陣屋(牛久市城中町)
 谷田部陣屋(つくば市谷田部)
 下妻陣屋(下妻市下妻甲)
 下野国(栃木県)
 黒羽陣屋(大田原市黒羽田町・前田)
 喜連川陣屋(さくら市喜連川字本町)
 茂木陣屋(芳賀郡茂木町茂木)
 佐野=植野陣屋(佐野市植下町)
 足利陣屋(足利市雪輪町)
 上野国(群馬県)
 伊勢崎陣屋(伊勢崎市曲輪町)
 七日市陣屋(富岡市七日市)
 小幡陣屋(甘楽郡甘楽町小幡)

クレス出版		著者：米田藤博	番線
小藩大名の家臣団と陣屋町		本体価格6,000円+税	
新刊			
第2巻	中国・四国・九州	ISBN 978-4-87733-999-9	冊
第3巻	南関東・中部地方	ISBN 978-4-86670-058-8	冊
既刊			
第1巻	近畿地方	ISBN 978-4-87733-999-8	冊
第4巻	東北・北関東地方	ISBN 978-4-86670-059-5	冊

四冊そろって全国踏破。

新装改訂版
第1巻

—近畿地方—

A5判 / 並製 / 278頁 / C3025
本体価格 6,000円 (税抜)
ISBN 978-4-87733-998-2

表紙：栢原陣屋 太鼓櫓

書き下ろし
第4巻

—東北・北関東地方—

A5判 / 並製 / 398頁 / C3025
本体価格 6,000円 (税抜)
ISBN 978-4-86670-059-5

表紙：一関陣屋 裏門 (現・毛越寺山門)



株式会社クレス出版

〒103-0001東京都中央区日本橋小伝馬町14-5 TEL03-3808-1821 FAX03-3808-1822